



### ＝新年のご挨拶＝

センター長 永國 淳哉

#### 土佐人の生涯学習

土佐人は、勉強好きか、嫌いか。

よく云われるのに「土佐人は、

議論好き」というのがある。これは南国の酒飲みの風土と関連しているらしい。自由民権運動にしても、酒の盃を交わしながら意見を交わした。それだけに土佐民権派の主張は純粹であった。発想に自由さがあった。

「龍馬は本を読まぬ・・・」と、その盟友・平井収二郎が妹の加尾に書き送っている。“いい男だが、読書嫌いだから恋人としては推薦できない”ということだ。

机に向かって本を読むのが「勉強」という観念があった。土佐人は、これが苦手だ。

この「勉強」のスタイル評価が大きく変わりつつある。机にパソコンがのってから変化がはじまった。

コンピュータ・ゲームをしても、親は「机に向かっている」と、喜んでた。ところが、その勉強スタイルが「おたく族」をうみ、“新奇な”社会問題を引き起こし始めた。

家庭だけでなく学校教育も変化しはじめた。黒板に向かう学習から、“総合的な学習”という自己学習スタイルに移行。さらにインターンシップという職場体験も採用してきた。

こうした中で、文部科学省は“職場のもつ教育能力”を認識し、その活用を「日本版デュアルシステム」という名で新政策の柱の一つにすえた。

机の上で学ぶことだけでは、実社会で役に立たないのである。生きる知恵にはならないのである。

今年のKOLEC (NPO高知県生涯学習支援センター)は、昨年の実績の上に立って、土佐の自然から学ぶ“アウトドア”、少なくとも“アクションのある”生涯学習プランを試行してみたいと願っている。

前高知大学学長の山本晋平先生を中心に、昨年四月に発足した我々は、「高知発、21世紀の食を求め

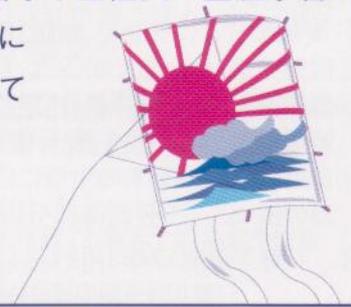
て」という連続講座を実施してきた。

参加した方々からは、「生活の基本である“飲食”を学習することの愉しさを知った」との声を頂戴している。実際に、食材づくりから、食べながら呑みながら、学習。この自然に恵まれた土佐に、21世紀の食文化が花開くことを願っている。

また土佐には、自然に育まれてきた四国八十八ヶ所巡礼の風習が現存。観光産業の面からも再検討がなされようとしている。昨秋には愛媛大学の内田九州男教授の協力で、「世界から見た四国遍路」という研究集会を実施することができた。スペインのサンチャゴ巡礼のように、四国の八十八ヶ所巡りも生涯学習にも活用できる糸口をつかむことが出来た。

黒潮が流れ込む土佐の海原も、素晴らしい生涯学習キャンパスである。帆船を世界の海に走らせる構想の話もでている。高知の国際化教育を、黒潮還流のフィールドでとらえることの多様な可能性は、ジョン万次郎を生んだ土佐の歴史が教えてくれる。

机に向かうことの苦手な土佐人の生涯学習の理想を、みなさんと一緒に築き上げたいと夢見ている。ご協力下さい。

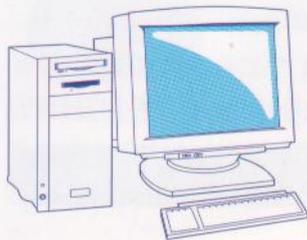


### 今年もよろしくお願ひします

(五十音順)

理事長	山本 晋平		
副理事長	高木 義夫	永國 淳哉	
理事	佐竹 新市	杉本 一喜	田村 安興
	中内 光昭	中澤 秀夫	二宮 久美
	廣瀬 典民	満塩 博美	宮尻 千恵子
	渡邊 進	渡邊 輝道	
監事	今津 速夫	北岡 一夫	
職員	秋澤 志名	松坂 吉昭	

# エル・ネット(e-Net、教育情報衛星通信ネットワーク)を活用しよう!(その2)



KOLECニューズレター、平成16年11月号(第8号)で紹介した「エル・ネット(文部科学省の教育情報衛星通信ネットワーク)」の受信局は全国で約2,200ヶ所、高知県では40ヶ所が整備され、学校・社会教育はもちろん、一般の方も視聴できます。エル・ネット受信局の普及率は全国平均で人口64,000人に一台の割合ですが、高知県での普及率(20,000人に一台)は全国で第五位と非常に普及しています(全国一位は島根県、10,000人に一台、最下位は東京都の290,000人に一台)。このエル・ネットがどのように高知県下で利用されているか昨年末にアンケートをとりました。県内40ヶ所すべてに質問用紙を送付しましたが、残念ながら回答をいただいたのは40%にも満たない、わずか15ヶ所でした。

乏しい回収の中で集計した結果(?)は、高知県ではエル・ネットはほとんど利用されていないと言っても過言ではなく、高知県では宝の持ち腐れの存在であることが判りました。

NPO 高知県生涯学習支援センターではエル・ネット受信装置未設置の地域の人々にもエル・ネットを利用した学校・社会教育事業を展開してもらおうと考えました。しかし、エル・ネット受信装置はパラボラアンテナ、デジタ

ルCS チューナーのセット(テレビ、録画装置は含まず)で約45万円と高価な装置なので、高知県からエル・ネット受信装置を借り受ける交渉をしています(NPO 高知県生涯学習支援センターが公立の社会教育施設であるならば、文部科学省の補助金を利用することができますが、我々NPO 高知県生涯学習支援センターは公立ではありません)。

借り受けることができれば、受信局に毎週送信されているスケジュール表、番組で使用する資料などをNPO 高知県生涯学習支援センターのホームページで公開する予定です。そして、エル・ネット番組「オープンカレッジ」、「文部科学省ニュース」、「研修プログラム」、「子ども放送局」をすべてDVDに収録し、整理・データベース化して「エル・ネットライブラリー」を「高知県視聴覚ライブラリー」に併設させて構築し、受信装置を持たない一般にも貸し出しをしようと考えています。

エル・ネットの番組は若干の制約がありますが、録画したテープ、DVDの貸出など学校・社会教育事業に活用できることから、他地域での取組も参考にしてエル・ネット受信装置未設置の地域の人々にも利用してもらおうとさらに検討を進めています。



## 「第32回 こども英語弁論大会」参加者募集

こども英語弁論大会は、「高知県下の子ども達に国際人としての感覚を身につけ、将来国際社会で活躍できる人間に育てる」という主旨で行なわれます。

### 弁論内容

- ① 弁論の初めに英語で、論題、氏名、所属(幼稚園、保育園名または学校名)、年令または学年を述べること。
- ② 課題弁論(Recitation)又は、自由弁論(Public Speaking)とする。
- ③ 課題弁論は、幼児の部、小学校低学年の部(1~3年)、高学年の部(4~6年)の3部に分かれ、主催者より出題される暗唱課題のうち1つを選び、復誦するものとする。
- ④ 自由弁論は、子どもの生活に密着した題材で未発表のものに限る。印刷、販売されている既製のものからの抜粋等は認められない。3分前後、5分以内とする。英語指導者等の英文作成は認められる。

日時：平成17年3月27日(日)午後1時  
(参加者多数の場合時間変更があり、幼児の部を)  
午前10時30分開会とします)

会場：高知県教育センター分館 南棟1階  
大講義室(高知市大原町132番地)

参加資格：3歳以上、小学6年生まで。(高知県在住の児童)

申込締切り

3月11日(金)までに申込書と参加費用を当センターへ持参するか、現金書留に申込書と参加費用を入れ、11日必着でお申し込み下さい。なお、暗唱課題使用の方は、送料料金80円と返信用封筒を同封して下さい。

主催：NPO 高知県生涯学習支援センター

後援：高知県、高知市、高知県教育委員会、高知新聞社、読売新聞高知支局、朝日新聞高知支局、毎日新聞高知支局、NHK高知放送局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知ロータリークラブ

申込先：〒780-8031 高知市大原町132番  
教育センター分館 南棟2階  
NPO高知県生涯学習支援センター  
こども英語弁論大会係

参加費：3,000円(児童は上履きを持参ください)

問い合わせ：NPO高知県生涯学習支援センター

こども英語弁論大会担当 秋澤

TEL088-833-0022/FAX088-833-0023

こども英語弁論大会では、幼児対象の高知県知事杯、小学校低学年対象の高知ロータリークラブ会長杯、小学校高学年対象の高知市長杯、自由弁論の最優秀賞のジョン万杯、課題弁論の最優秀賞の龍馬杯および幼児と小学校低学年および高学年の合同の熟演賞が各優勝者に贈られます。



むかしまっこう さるまっこう

建依別と呼ばれた遠流の地、土佐には一種隔絶された文化がありました。その底流には美しい自然に囲まれた人々の交流と、きびしい自然に挑んだ人々の暖かい心の潤いがあり、それらは「民話」や「昔ばなし」

として各地に数多く残されています。「むかし むかしあるところに」と始まる昔ばなしを聴く子どもたちの瞳のかがやきを求めて、土佐教育研究会国語部会の方々が県下各地で採集された昔ばなしを昭和51年、「高知のむかし話」(株式会社 日本標準)の形で残しています。新しいところでは、平成13年7月に高知県立文学館で開かれた「土佐の昔話」展もありました。

このたび、「高知昔ばなし大学OB会」の青山章子さん、楠目和世さん、西川まゆみさん、山中節子さんたちを中心にして、NPO 高知県生涯学習支援センターに「高知昔ばなし研究会」を発足させます。主な活動は①高知

県の昔ばなし、日本各地の昔ばなし、世界の昔ばなしなどの学習、研究、②ストーリーテリング、③再話、④その他が計画されています。暫定的に2ヶ月に一度(第1土曜日、10:00~12:00AM)集まり、研究会を開きますが、第1回は2月5日(土)10:00~12:00AM、拠点となるNPO 高知県生涯学習支援センターで開催します。当日は発会と今後の展開について「高知昔ばなし大学OB会」を中心にして検討した後、小澤俊夫著「昔話が語る子どもの姿」をテキストとして研究会を始めます。多くの方々の参加を求めています。

テキスト(小澤俊夫 著「昔話が語る子どもの姿」、古今社、1890円)  
ご希望の方は  
NPO 高知県生涯学習支援センターまでご連絡下さい。



## 「高知／炭の科学と文化研究会」(仮称)を計画中です!

近代日本のエネルギーを支えた木炭は、産業構造や生活様式の変化とともに基幹産業としての歴史を終えました。岩手、島根、和歌山などと木炭王国に名を連ねていた高知県も昭和32年の木炭生産量135,000トンピークにその生産量は激減し、今日では当時の1%程度となりました。

世界に誇る日本の備長炭(紀州・日向・土佐)やカシなどの黒炭は高品質の木炭ですが、輸入炭が国内消費の8割を超えようとする現実です。安価な外国炭の輸入増大に加え、長期の不況、生産者の高齢化、原木不足などがこれに拍車をかけるという構造になり、国内の木炭生産は地域産業としての期待はもてません。

このような状況下で生産者、研究者、利用者、行政関係者など多数が参加し、平成13年11月、「シンポジウム2001 in 高知 炭／産業とくらし・文化を考える」が高知市で開かれました。それから約3年が経過した昨年8月、中国政府は森林保護のため備長炭を含めた木炭の大部分を輸出禁止とし、さらに10月からは備長炭の輸出を全面禁止としました。中国産備長炭は日本で消費される備長炭の9割を占めるため、どのような影響が出るか注目されます。

高度経済成長と科学技術の発展は木炭産業の衰退をもたらしましたが、近年の科学技術は木炭を電磁波遮蔽などの機能性新素材として利用するなど多様な用途の分野を開きつつあり、燃料以外の用途が拡大しつつあります。

NPO 高知県生涯学習支援センターの活動の一分野として「高知／炭の科学と文化研究会」を発足させようと計画しています。長年、土佐備長炭の研究を続けてきた

宮川敏彦氏を中心として、総合的な研究推進によって伝統的な地域産業である土佐備長炭の振興と増産が目的です。その中では、平成9年に文部科学省により文化財保護区に指定されている室戸市吉良川の町並みに沿って備長炭博物館や備長炭の道づくり、備長炭歴史窯の復元、実験・実習窯の設置、高知県・国との連携で若者たちへの炭文化の継承、普及などの夢も考えられています。

これまでにNPO 高知県生涯学習支援センターで考えられている研究会の骨子は次のようになっています。

### 「高知／炭の科学と文化研究会」(仮称)

1. 目的：炭の文化・産業・科学など総合的に考え、研究と利用の発展について交流します。
2. 加入：生産者、研究者、利用者など炭とその利用に関心のある人は誰でも加入でき、会誌や情報紙に投稿できます。
3. 研究会：年2回(原則として6・12月)に行います。
4. 研究と交流誌の発行：
  - ① 1年間の研究と交流のための研究会誌(12月発行)
  - ② 炭の情報紙(3・6・9・12月発行)
5. 会費：年額2000円(研究会誌・情報紙・通信費・その他)
6. 事務局：NPO 高知県生涯学習支援センター  
(高知市大原町132番地)

今後のスケジュールとして1~3月の間にさらに研究会の詳細を煮詰めて、4月中下旬に発会とシンポジウムないしは講演会を考えています。忌憚のないご意見、ご希望などをNPO 高知県生涯学習支援センター(info@kolec.jp)にお寄せ下さい。

# 第3回 不登校・高校中退者のための進路相談会(12月15日)の報告

友村憲朗さん(高知県心の教育センター所長)の講演「これまでの事例から」から始まった。まず、気持ちの解きほぐしとして、図形を前に貼り「どう見えますか?」と参加者と応答しながら和やかな中、今は、高校生になっている「あきら君(仮名)」を例に取り上げ、本題に入った。

小学校4年生の時、太り始め、不登校となる。以前に一時、郡部へ住んでいたのをそちらへ転校させることにした。元来、音楽が好きでバイオリンを習っていたので、楽団へ入り、彼は自分の居場所を見つけた。楽団の仲間たちと今ブームの韓国へ旅行に行った時の心温まるお話がある。人気ドラマの“冬のソナタ”のロケ現場で恋人同士のシーンを演じるのが今ブームだが、仲間たち

があきら君にと持ち上げられ照れながらみんなの見守る中で役を演じ、拍手喝采というほほえましい場面を見るまでに成長した。今、韓国の交換留学生が彼の家にホームステイするという日を楽しみにしているということだ。

不登校の子どもたちは「どちらかという集団行動がなじめないけれども性格が優しい」などの特徴があるが、その子なりの良さを活かしその後、自分の生き方をつかんでいる子供が多い。

まとめとして、初の図形の絵のように、一つのものを見ても色々な見方がある。“今、不登校という現実”という見方があるが、決してマイナスイメージだけでとらわれないで欲しい。(Y)

## 進路相談会12月例会 職業適性検査 ~「ジョブカフェこうち」の果たす役割と職業興味検査~(12月15日)に参加して

### 参加者の声

若者の就職支援センターとして「ジョブカフェこうち」は、ハローワークにつながる前にサポートするお手伝いをしています。

その1つに職業興味テスト(レディネステスト)があり、12月の月例会で実施されました。老年者の私も今更と思いつつも興味深く、○×を書きテストをうけてみました。

くっきりと出る山と谷の直線は、職業に対する意識が高く、また興味と自信度の違いは、自分の職業に対する見方や知鼓が反映されているとの説明が書かれています。

その結果、意外性に驚くと共に、自分の思い込みを再考することにより職業選択の巾をもっと広げて考えてみるチャンスでもあるということです。

私ってもしかしたら……かもと思いは広がる。しかし、

このテストが自分のすべてを示すものではなく、あくまでも将来の道しるべの手助けであることは、いうまでもない。

今夜は、かもがネギを背負ってくる夢を見るかもしれません。(S)

職業適性検査に初めて参加しました。はじめに、お話を聞きました。若い人たちが仕事を求めに“ジョブカフェ”にたくさん来ていることを知りました。私も“ジョブカフェ”というのを始めて聞きました。話を聞いていると、共感できる部分がたくさんありました「あたしもそう思った」など…。

テストでは、丁寧に指導してくれて、わかりやすかったです。結果は、思ったとおり(?)でした。自分にあった仕事や自分が得意な分野に仕事に就くと生かせると思います。(YY)

## 1月生涯学習アニメーター月例会(相談事例の報告会)のお知らせ

助言者に心の教育センターより徳永智恵子さんをお迎えし、みなさんの相談などを持ち寄り、いっしょに話し合しましょう。ぜひ、ご参加ください。

日時：平成17年1月19日(水)午後2時~3時30分  
場所：教育センター分館南棟2階中講義室(駐車場有)  
参加費：無料  
申込み：電話・FAX・電子メールにて受付



発行 2005年1月11日  
NPO高知県生涯学習支援センター(KOLEC)  
〒780-8031  
高知市大原町132番地(教育センター分館内)  
電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023  
KOLEC 電話進路相談の電話 088-833-0086  
電子メール info@kolec.jp  
URL http://www.kolec.jp  
発行人 理事長 山本晋平  
編集 NPO KOLEC編集室/印刷 中島出版印刷

